地域の将来を担う子どもたちの能力を測るには？

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：地域共創人材が持つ10の資質・能力の測定評価方法の開発

研究代表者：高等教育推進センター 渡部 芳栄

課題提案者：岩手町

研究メンバー：谷地健人（岩手町）、高瀬和実（高等教育推進センター）

技術キーワード：地域共創人材，能力，測定・評価

▼研究の背景・目標

・岩手町は「SDGs未来都市共創プロジェクト」を推進しているが、その中心となる人材を「地域共創人材」と定義し、地域に愛着と高い志を持つ人材の育成を目指している

・本研究では「地域共創人材」の資質・能力を測定する項目を開発する

・測定・評価項目の妥当性を検証し、改良しながら教育の改善課題を明らかにする

▼研究の方法

1. 「地域共創人材」に必要とされる10の資質・能力について、それぞれの資質・能力を測定する質問項目を合計200項目作成
2. 6月と11月の2回にわたって同一項目で測定を実施
3. 2回の測定について、一貫性を評価
4. 2回目の結果について、外部テストとの比較を通して妥当性を評価

▼研究の結果

◎一貫性の分析の結果（結果1）

・「1基礎学力・基礎スキル」「3課題発見力・設定力」「4課題解決力」「8多様性の中で協働する力」「10遊び心」は1回目・2回目ともに α 係数が0.9を超え（オレンジ色）、十分な内的整合性を示した

・「5自信/自己効力感/自己肯定感」は2回目で α 係数が低下し、0.7未満となったものもあった（水色）

◎妥当性の分析の結果（結果2）

・表の通り、相関が見られた尺度もあるが（オレンジ色）、想定通りの結果が得られなかったものが多かった

結果1: 一貫性の分析結果(クロンバックの α)

	1回目	2回目
1基礎学力・基礎スキル	0.94	0.91
2創造力・発想力(0から1をつくる力)	0.89	0.77
3課題発見力・設定力	0.94	0.94
4課題解決力	0.96	0.94
5_1自信/自己効力感/自己肯定感	0.73	0.66
5_2自信/自己効力感/自己肯定感	0.85	0.73
6果敢な失敗と回復力(レジリエンス)	0.84	0.82
7当事者意識	0.76	0.71
8多様性の中で協働する力(コラボレーション能力)	0.97	0.95
9周囲を巻き込み動かす力(リーダーシップ)	0.76	0.76
10遊び心	0.97	0.95

結果2: 妥当性の分析結果(PROGとの相関)

	1基礎学力・基礎スキル	2創造力・発想力(0から1をつくる力)	3課題発見力・設定力	4課題解決力	5自信/自己効力感/自己肯定感	5自信/自己効力感/自己肯定感	6果敢な失敗と回復力(レジリエンス)	7当事者意識	8多様性の中で協働する力(コラボレーション能力)	9周囲を巻き込み動かす力(リーダーシップ)	10遊び心
親和力	-0.19	0.15	-0.02	0.00	-0.06	0.21	0.14	0.29	0.18	0.30	0.06
協働力	-0.05	0.17	0.12	0.22	-0.17	0.11	0.08	0.29	0.30	0.33	0.12
統率力	0.04	0.47	0.17	0.30	0.34	0.36	0.34	0.62	0.25	-0.03	0.18
感情制御力	0.16	0.36	0.13	0.24	0.39	0.29	0.49	0.66	0.35	0.02	0.24
自信創出力	0.15	0.39	0.27	0.37	0.19	0.12	0.44	0.44	0.42	0.24	0.45
行動持続力	0.04	0.43	0.09	0.18	0.32	0.34	0.41	0.64	0.13	0.10	0.14
課題発見力	0.18	0.13	0.20	0.36	0.19	0.26	0.37	0.37	0.29	-0.05	0.20
計画立案力	0.27	0.27	0.34	0.45	0.10	0.24	0.35	0.21	0.27	0.01	0.30
実践力	0.31	0.43	0.42	0.54	0.34	0.27	0.45	0.16	0.28	0.06	0.30

▼まとめと今後の課題等

◎独自調査について、信頼性は高いが、妥当性については引き続き検討が必要。

◎信頼性の低下について、項目数が多く、高校生の集中力に問題があった可能性もある。

・10の資質・能力の教育内容・方法と測定の重要性を学校や生徒と共有し、正しく測定される工夫が必要。

・資質・能力の再定義を視野に入れ、信頼性・妥当性の高い測定評価方法の改善を継続。

※研究に協力いただいた沼宮内高校の生徒・教職員、関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。